

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2738414
園名	麻の実幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然観察

<テーマの設定理由>

園の豊かな自然環境を活かし、四季折々の果実や野菜等の栽培、収穫、活用を行っている。在園児が自宅で採れたへちまの種を園に持ってきたことでクラスの子どもたちが興味を持ち、「へちま」という植物自体に面白さを感じたようだった。縦割りの預かり保育においてその話をしたところ、自分たちで蒔きたいという話になった。

2. 活動スケジュール

5月中旬 種の準備・種蒔き
6月中旬 植え替え・アーチ設置
10月上旬 収穫・乾燥
11月下旬 皮むき・種取り
12月上旬 黒ずんでいるへちま茹で
1月 ライトテーブルでの観察・たわしとしての活用

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

へちまの種、育苗トレー、野菜用培養土、支柱、アーチ、ネット、シャベル、ジョーロ、ヒモ、新聞紙、図鑑、カメラ、ライトテーブル
雨水タンク
育苗トレーで発芽を促す場所
植え替えする広い場所の確保と準備、アーチ等の設備

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

種の準備・種蒔き・収穫・乾燥・皮むき・種取り・茹で・ライトテーブルでの観察・たわしとしての活用

<活動中の子供達の姿・声、子供同士や教諭との関わり>

(図鑑を見ながら)「これがこういうヘチマになるの？」
雨水タンクからジョーロに水を移しながら「楽しみだね」
毎日水をあげてもなかなか発芽せず「まだのどが渴いてるのかな」
支柱を立てたのを見て、「どうして棒がいるの？」
→ ツルが巻きついているのを見て「あ！あさがおと同じだからだ」
→ 教員が、種類が違ふことやツルの巻き方も違ふことなどを図鑑で紹介
成長した葉を見て「大きい！」「雨のにおいがする」
実について「トウモロコシより大きい」「重たい」「ざらざらしてる」「枝豆みたいな形」
→ 乾燥後、「軽くなった」「ヘチマのにおいしなくなった」
枯れてくると、種が出てくことに気づき「種が出てきたね」「いっぱいとれそう」
種取りの段階になり、「種が入っていて音がするよ」
→ 教員「マラカスみたいにしてみようか」



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもと一緒に初めての挑戦となった種からのヘチマづくり。

一緒にやり方を調べ、種の上を切ったり、トレーに水を張って置いてから沈んだ種を使うなど、「今」を急がず丁寧に進めていった。

縦割りならではの年長らしい知識を話したりする中で、水のやりすぎで枯れてしまった経験も、生き物・植物を育てる難しさを知る良い機会となった。

ツル性を活かしてトンネル状に仕立てたことで、ネチマのなり方がよくわかり、ヘチマトンネルを楽しむことが、更に観察に行きたい気持ちを高めた。これまでの野菜作りとは違う面白さ、興味関心につながった。

乾燥もテラスで行うことで、日々変化していくのを、友だちと見たり、じっくり見たり、気付いたことを話したりと間近でみることができた。

更に、ライトテーブルを使い、見るのが難しい内側の構造を知ることができたり、透けること自体の面白さを感じるなど、子どもたちの探究心を深めていった。